

保護者の皆様へ

日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび本校では、文部科学省の最新ガイドラインに基づき、生徒が社会で必要とされる情報活用能力や課題解決能力を育むための新たな取り組みとして、生成 AI「Gemini(Google 提供)」及び「notebookLM」「CANVA 生成 AI」を授業に取り入れることとなりました。

生成 AI とは、質問や指示に応じて文章などを自動で生成する技術で、生徒が将来直面するであろう情報化社会で重要な役割を果たすと考えられています。本校では、AI を通じて生徒が多様な視点を得たり、自らの考えを深めたりすることを目標としております。

なお、AI の活用にあたっては以下の点を徹底いたします。

- ・生成 AI の基本的な仕組みや利点・リスク、活用方法について生徒に事前指導を行います。
- ・生徒が AI の生成物（※1）をそのまま使用せず、自分の言葉や考えを必ず加えるように指導をします。
- ・生徒が AI 活用の履歴を記録し、自己評価や振り返りを通じて主体的な学びにつなげます。
- ・生徒には事前指導を行い、氏名や住所などの個人情報は一切入力させず、プライバシーの保護を徹底します。
- ・教師が活用状況を適切に監督し、不適切な使用や内容が確認された場合は、速やかに対応します。

また、以下の点についても特に御家庭でお子様と一緒に確認していただけますと幸いです。

- 生成 AI の出力結果はあくまで一つの意見や情報であり、正解ではないこと。
- 出力された内容を鵜呑みにせず、他の情報源と照らし合わせて確認する姿勢をもつこと。
- 自分の考えや意見をもち、AI に頼りすぎないようにすること。
- AI の使用履歴や生成物や成果物（※2）について、家庭でも保護者の方が一緒に見て振り返る機会をもつこと。
- AI の使用に関する家庭内でのルール（時間帯、目的、共有）を一緒に決めること。

これらを通して、情報モラルの育成と主体的な学びの促進にも繋げていきたいと考えております。詳細や御質問がございましたら、いつでも学校に御相談ください。

引き続き御理解と御支援のほど、よろしく願いいたします。

※1 AI の生成物：生成 AI が自動的に作り出したもの。人間の介在が少ない、または全くない状態で出力されたもの。

※2 成果物：生成物をもとにして人間が編集・加工・判断・評価をしたうえで完成させたもの。

【Q&A】

Q1 個人情報やプライバシーは本当に安全ですか？

A1 個人情報は一切入力しないことを徹底し、AI利用時のプライバシー保護を最優先します。

Q2 AIの生成物をそのまま提出する生徒が出るのでは？

A2 提出物にはAI利用履歴や自分の考えを記録させることで、生徒自身の言葉や考え等を加えた成果物の提出を促します。

Q3 AIに依存してしまわないか心配です。

A3 AIは学習を補助するツールとして活用し、生徒自身の主体的な学びや思考を促すことを目的としています。また、生徒がAIの生成物を批判的に検討することで思考力の育成も期待できます。

Q4 AIが不適切な情報を出すリスクはないですか？

A4 教員が常に監督し、不適切な内容が提示された場合はすぐに対応し、生徒が正しく情報を取り扱うことができるよう指導します。

Q5 AIを使っていない家庭との格差が出ませんか？

A5 学校でのAI利用を平等に提供し、自宅でも必要に応じて利用できるよう個別に学習をサポートします。

Q6 AIを活用した課題について、保護者はどのようにサポートすればよいですか？

A6 AI活用時のルールや目的をお子様と話し合い、家庭でも安全に正しく活用できるようサポートをお願いいたします。

【中島中学校の生成AI活用ルール（案）】

1. 生成AIは、学習を補助する目的でのみ活用し、AIの出力（生成物）をそのまま自分の作品（成果物）として提出しない。
2. AIを活用した際は、その内容と自分の考えや評価を必ず記録し、振り返りを行う。
3. 個人情報（名前、住所、連絡先等）は絶対にAIに入力しない。
4. AIから得た情報は必ず複数の情報源で確認し、その正確性・正誤性を批判的に検討する。
5. 著作権や倫理的なルールを遵守し、AIを不適切に使用しない。

【家庭学習についてのルール（案）】

1. 家庭学習で生成AIを活用する際も、学校の利用規則を守る。
2. AIを活用した内容は必ず記録し、自分の考えや評価を添えて保護者に提示する。
3. 家庭学習でAIを活用する場合も、個人情報の入力絶対に行わない。
4. AIの出力を鵜呑みにせず、家庭での学習時にも情報の真偽を複数の情報源（例：教科書、図書館資料、信頼性の高いウェブサイト等）で確認する。
5. 保護者との対話を通じて、適切なAI利活用方法や情報モラルについての理解を深める。